

友の会通信

2013
Vol.
28

～群馬県立自然史博物館友の会～

体験活動 「下仁田ジオパークを探検しよう」
10月20日(日)

温故「地」新一故きを温め新しきジオを知る—今回お世話になった講師、下仁田町自然史館の関谷友彦先生に教えて頂いた言葉です。ギザギザの妙義山、それとは逆に真っ平らな荒船山、尖った鹿岳、椀を伏せたような根無し山など、日本ジオパークの一つに認定された下仁田の地を見た人の多くが、此処の生い立ちについて知りたくなることでしょう。

今回はまず自然史館内でレクチャーを受け、「ジオパークとは、地質地形のみに留まらず、それがもたらす人々の暮らしや文化、防災等にも大いに関係がある」ことなど教わり、その後館内展示物見学で予備知識を付け、ジオサイトに出発しました。

①まず最初は有名な〔跡倉の大断層〕。ここでは上盤砂岩層の鏡肌、条線でわかる断層の移動の方向などを確め、下盤では破碎帯中の層の動きで磨かれて蛇紋岩状の光沢の出た角礫の多さに改めて気付き、皆さん手に取ってツルツル面に触れていました。下盤は次に行く公園の、青岩と同類のものです。

②〔青岩公園〕では清々しい岩畳の上に皆で登り、白亜紀末に地下深くの圧力で片岩になったという青岩の成因や、九州迄も続く分布、白い筋は方解石や石英の脈であること、合流点での河原の色とりどりな礫のデザインと種類の豊富さ、ここから見た根無し山の〔①〕で見た上下地質の違いで生じた山腹傾斜角の変化の様子などに触れ、また岩畳の上に迄も乗ってしまったm級のチャート塊からは、流速等との比例関係にある運搬作用を持つ川の力の凄さを実感しました。

③最後は〔田島屋蒟蒻製粉工場(大正10年創業～平成10年操業停止)〕です。この立地は鑛川から取水してタービン水車の動力としたのが条件で、木造工場の巧みさには時代を超えた技術力を感じ、何百本も立ち並ぶ数mの杵が水力で稼働していた当時のことを想像すると、その迫力は圧巻でした。また、参加者のひとり、この地出身の堀越武男先生からは、地元まつわるエピソードの数々を伺うことができました。

地質遺産の宝庫といわれる此の地の、世界ジオパーク認定に向けた関係者皆様方のご活躍をお祈り致します。
(三友 賢一)



【参加者の声】

- ★講師の先生の説明が大変わかりやすくよかったです。(山口裕子)
- ★たくさんの自然が目の前にあって、楽しかったです。また来たいと思いました。(堀地翔太)
- ★石がつるつるで気持ちよかったです。とてもすごかったです。(堀地愛美)
- ★コンニャク工場を説明してもらいながら見学できたのでよかったです。(堀地司郎)
- ★下仁田がジオパークに登録され、いつか専門の先生の説明を聞きたいと思っていたので、念願が叶いました。自然をより深く理解していけることに大変喜びを感じました。(三友 賢一)
- ★比較的近い場所だったので参加しやすかったです。過ごしやすい気候で最適でした。また参加したいです。(柳澤敬一)
- ★実際に現地を見ることは大切です。断層面やコンニャク工場、大変よかったです。ジオパークについてよくわかりました。(橋本健一)
- ★現地で説明していただき、大変勉強になりました。(浅見誠治)



【視察研修】

山梨県立博物館・サントリー白州蒸溜所



11月4日(日)、快晴。総勢43名、6時40分自然史博物館出発。妙義から長野の山々の紅葉を楽しみながら、快適なバス旅行がスタートしました。9時45分、目的地に到着。入口を入ると今が盛りのトチの黄葉が私たちを迎えてくれました。

広い敷地には、多くの草花やヤマナシやドングリなどが植栽され、地域を生かして整地されていました。2005年開館だそうです。エントランスでは、ガラス越しに甲府盆地に模した石庭と大きな花崗岩の見える前で館の説明を受けました。メイン展示場内は、山梨の歴史と文化を中心に展示され、特に周辺の壁の活用が印象に残りました。また、多くのジオラマを使い、物語風に使われるなど展示に工夫がなされていました。

体験の場も充実しており、視聴覚など五感に訴えるものなどが多く、楽しく体験できるように工夫されていました。当日は、企画展「黄金の国々、甲斐の金山と佐渡の金銀」が開催中で金と幕府との関係など、大変興味をひきました。

午後は、山深い南アルプス甲斐駒ヶ岳に抱かれて誕生した名酒の地、サントリー白州蒸溜所を見学しました。ウイスキーづくりに適した風土、気候と名水、伝統に裏付けられた職人の技が名酒を生んだことを学び、最後に名酒、白州・山崎を試飲、気分爽快この地を後にしました。(柚木 郁)

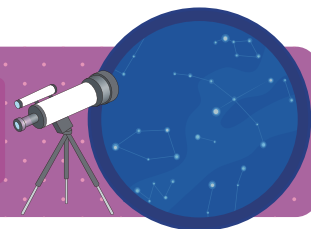


【参加者の声】



- ★他県の博物館に行く機会がなかなかないので、とても楽しかったです。紅葉もきれいだったので、車内も退屈しませんでした。(青木直美)
- ★サントリー白州工場の内容がよかったです。ウイスキーの製造過程や貯蔵の様子が見学できてよかったです。(福島尚嗣)
- ★「金」についての企画展示などが見られてよかったです。サントリーの工場では、サントリーの取組など、なかなか見られないところなので楽しめました。(福島由起江)
- ★ジオラマの展示がとてもよかったです。(福島淳子)
- ★博物館「かいじあむ」では、解説してもらいながら見学することができてよかったです。(堀地美千代)
- ★とても楽しかったです。(堀地愛美)
- ★一つ一つの見学時間が短く感じるくらい楽しかったです。(堀地翔太)
- ★解説員さんがついつい見学がよかったです。お弁当がおいしくて子どもたちは喜んでいました。家族で楽しく過ごすことができました。(堀地司郎)
- ★山梨県博は、展示方法が斬新で山梨県の自然・歴史を興味深く紹介していました。(堀越武男)
- ★自然史博物館で見る自然の歴史だけでなく、人間の歴史も見ることができて勉強になりました。(倉金正幸)
- ★友の会の研修旅行は毎回楽しみにしています。近県でもいろいろな博物館等があることに驚かされます。(倉金秀行)
- ★山梨の博物館は、行ったことがなかったし、ジオラマなどがたくさんあって楽しかったです。(倉金遙子)
- ★山梨県立博物館では、金山の歴史を興味深く拝見しました。サントリー白州工場では、ウイスキーについての説明を聞きながら試飲させていただきました。(倉金由起子)
- ★山梨県には行ったことがありませんでした。博物館で土地の様子などが少しわかりました。(塚越やよい)
- ★博物館は、近代的で清潔感があり、ジオラマも工夫されていて素晴らしいものでした。サントリー工場の試飲もおいしいウイスキーでよかったです。(岩淵直樹)
- ★サントリー白州工場は行きたかった場所なのでよかったです。(柳澤敬一)
- ★かいじあむのお面がこわかったです。サントリーでお菓子がもらえてよかったです。(太田知希)
- ★山梨県立博物館は、新しい建物で美しく現代的でよかったが、民族的な展示が多く、サイエンス系がないのが残念でした。(太田裕二)
- ★サントリーのたるのところがすごかったけど、くさかったです。(藤井大輔)
- ★解説員付の解説を楽しみにしていたが、逆に見たいところをゆっくり見ることができなくて残念でした。(藤井 剛)
- ★山梨県立博物館「かいじあむ」は、新しい展示方法がいたるところにありおもしろかったです。紅葉、すみきった空、富士山、どこも素晴らしい景色でした。(堀越友子)

体験活動「天体観望会」



1月19日(日)、寒さ厳しい夜ではありましたが、「すごい!」「きれい!!」の歓声。参加者が自然と声にした驚き、感動の言葉です。月の撮影は、参加者自身がピントを合わせ、シャッターを切って撮影しました。

この上ない素敵な思い出の1枚となりました。
(事務局)



私が見つけた自然 友の会会員からのおたより

『アリの花』

期日:2012.6.24

場所:玉原湿原

その日は日曜で子供達が休み。朝からどこかへ行こうとせがまれていました。急に息子がモウセンゴケを見たいと言い出し、ネットで調べていると玉原湿原で見られるとありました。お弁当など準備もなく、水筒だけ持って現地へ。湿原を一周してモウセンゴケやオタマジャクシを見つけた帰りの木道です。葉っぱの上にかわいいアリを見つけました。葉の上についた水滴にどんどんアリが集まって、花の模様を作ってくれました。花の模様は短い時間でしたが、偶然できた花模様に子供達と「見られてラッキー!」ほっこり気分で帰りました。

(笹尾裕子)



『どじょう』

期日:2012.6.15

場所:関越自動車道 高崎IC付近の田

田植導水前の乾田をトラクターで耕起していると、掘り返された土の中に動くドジョウを一匹発見。この田は、昨年9月末落水し、その後外部からの水の流入は一切なく、厳寒と乾燥の冬、数回の除草のため耕起を経ています。わずかな土の湿気だけで、8カ月以上もこのドジョウは生き続けていたことになり、びっくり。その後、雨が降り、溜まった水に、何匹もの跳ねるドジョウが現れました。日本なのに、まるで肺魚のようなドジョウの生命力と生態に、田植前のひと時感激しました。

(三友賢一)



写真1 ドジョウ



写真2 ドジョウを発見した田

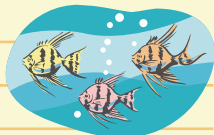


写真3 その後溜まった雨水

イベント紹介

【友の会総会】

日時:5月12日(日)10:00~10:30
場所:学習室



【友の会講演会】

日時:5月12日(日)10:45~11:45
講師:長谷川善和名誉館長
内容:「港川遺跡の動物たち」
場所:学習室

第42回企画展「サンゴ-共生の海・ささえあう生命-」

会期:3月16日(土)~5月12日(日)
観覧料:一般600円 高校・大学生300円

多くの生物が互いに助け合って生きるサンゴの森には、様々な生物が密接な協力関係のもとに暮らしています。地球生命の歴史において、人類の文明にも大きく関わったサンゴについて紹介します。そのサンゴが温暖化の影響で白化が起こり危機的状況です。サンゴ礁を守るためにどうしたらよいかを考えます。展示ではサンゴ生体を始めとして魚類、エビ・カニ、貝類、ウミガメ等の当館収蔵資料、サンゴ産卵の映像等を列品します。



写真:野回強志

第43回企画展 「甦れ!カミツキマッコウ 古代ゾウ -関東に眠る太古のいきものたち-」

会期:7月13日(土)~9月1日(日)
観覧料:一般700円 高校・大学生400円



友の会入会・継続のお願い

博物館への入館料が1年間無料!

その他の
入会特典は
次の3つです。

- ① ミュージアムショップの割引
- ② 友の会行事等への参加
- ③ 博物館からの情報配布

年会費

- | | |
|------------|---------|
| ① 一般会員 | 3,000円 |
| ② 高・大学生 | 2,000円 |
| ③ 小・中学生 | 1,000円 |
| ④ 家族会員 | 5,000円 |
| ⑤ 賛助会員(1口) | 10,000円 |

★現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、お知り合いの方に新規加入をおすすめいただければ幸いです。

私が見つけた自然 募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録して、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館友の会へ封書またはメールでお送りください。期日と撮影場所をお忘れなく…。エピソードは簡単なコメントで大丈夫です。友の会通信で紹介させていただきます。なお、応募していただいた方に素敵な賞品をプレゼントいたします。



【博物館利用案内】

開館時間:午前9時30分~午後5時(ただし入館は午後4時30分まで)

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)
年末、その他(博物館ホームページでご確認下さい。)

観覧料:一般500円 高校・大学生300円 中学生以下無料
企画展開催中は特別料金(上記「イベント紹介」をご覧ください)

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料

編集 後記

編集会議が終わり帰宅しながら、ふと友の会通信の役割は何だろうと考えました。掲載されているのは、会主催の行事報告と参加者の感想文、会員からの便り(私が見つけた自然)、事務局からのお知らせ等ですから、主な役割は全会員が会の事を等しく知るためなのでしょう。ところで、友の会は自然史博物館友の会です。館の重大行事である企画展については、見どころも含めて紹介してもらえると、博物館をもっと身近に感じるのではないかと思います。(友の会通信編集委員 角田寛子)